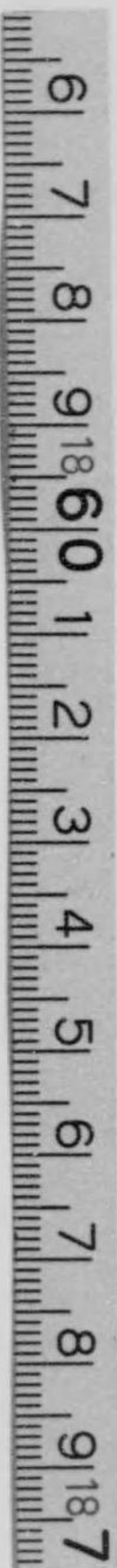


417
20



THE COLLECTION OF EUROPEAN MAPPIERS

歐州風俗大觀

藥學博士

山口誠太郎攝影

大正
15.11.25
購承

序

著者昨春日本を出でて歐洲の地に遊ぶ事一歳、審きに
彼地の風物に接し本春歸朝す、周遊する所或は南歐に
ラテンの情緒熱血を探り、或はブリテーンの古都に老
大國の古史を繙き、佛白の境には大戦の慘禍を弔ふて
暗涙禁じ難きものありき。更に一轉して中歐ドナウ
の河畔、強弱興亡の跡に立ちて低徊去るに忍ひず、或は
敗殘の祖國を負ふて勇躍蹶起せんとするゲルマンの
民情に接し轉た感慨に堪へざるものあり。而も母國
を離れて萬里、異邦にありて遙かに東洋を願望するこ
き眞に安恕たる能はざるものあり、茲に於て周遊する
所を心に憶し繪に記して以て舊を懐ひ、想を練るの資
となさんご欲せり、歸朝後偶々國際協和會の囑により
其中百數葉を版に刻み寫實小想の説明を附して公刊
し同好各位の机下に供せんごす、若し高覽を賜ふの士
に對して何ものか期待に適ふものあらば幸慶之れに
過ぎず、以て序となす。

大正十五年晚秋

著者謹識

歐洲風俗大觀 目次

獨

逸 (伯林)

伯林のルナパーク	一
ルナパークの茶館	二
伯林の食料品の市	三
大きな女	四
ベルリン郊外の電車停留場	五
伯林の乗合自働車	六
夏の賣出し	七
伯林の花屋	八
伯林地下電車入口	九
風車	一〇
ポツタームの宮殿	一一
ポツタームの清遊	一二
獨逸の巡査	一三
同	一四
ベルリンの嫁婦	一五
獨逸の子供	一六
同	一七
同	一八
曲馬團の廣告	一九
伯林の富籤屋	二〇
辻馬車の中で賭博	二一
獨逸の青年隊員	二二
獨逸の反猶太人黨	二三
盲目の物賣り	二四



獨

逸 (田舎)

スツットガルトの市街	二五
ナウンブルヒの町外れ	二六
ナウンブルヒの寺院	二七
ライプチヒの乗合自働車	二八
ライプチヒの露店	二九

小さな流車.....	三〇
メリーゴーラウンド(一).....	三三
フランクフルトの舊市廳.....	三三
フランクフルトの野菜市.....	三三
ポエーリングガー製薬工場.....	三四
ハイデルベルヒの古城.....	三五

伊 太 利

ヴェニススの町.....	三六
ヴェニスサンマルコの廣場(一).....	三七
同(二).....	三八
ヴェニススのゴンドラ.....	三九
ヴェニススのグランドカナール.....	四〇
ヴェニメの港(一).....	四一
同(二).....	四二
同(三).....	四三
トリエストの海岸(一).....	四四
同(二).....	四五
トリエストの廣場.....	四六
トリエストの野菜市.....	四七
ステーションの物賣り.....	四八
ポンペー居酒屋の跡.....	四九

佛 蘭 西 (巴里)

巴里のカフェー.....	五〇
巴里の嫁婦.....	五一
凱旋門の上から.....	五二
巴里の花屋.....	五三
巴里の焼栗屋.....	五四
佛蘭西パン.....	五五
ヴェルサイユ宮殿.....	五六
巴里無名戦士の墓.....	五七
人になつかしむ雀(一).....	五八

佛蘭西 (田舎)

マルセーユの郊外……………五九
 佛蘭西の漁師……………六〇
 巖窟王の牢獄……………六一
 マルセーユの貝賣り……………六二
 汚ない人々……………六三
 マルセーユの釣橋……………六四
 ニースの海岸……………六五
 ニースの公園……………六六
 ニースの薬局……………六七
 リオンの街……………六八
 ヴェルダンの子供……………六九

チエツクスロワキヤ

ブラーグの舊市廳と時計……………七〇
 ブラーグの市街……………七一
 ブラーグの御城……………七二
 ブラーグ秋の見本市……………七三
 チエツクの法界屋……………七四
 マリヤの像……………七五
 チエツクの農具……………七六
 ブラーグに於ける帝國公使館……………七七

埃太利

ウキーンの市街……………七六
 ウキーン大學……………七九
 維納シエーンブルンの庭園……………八〇
 ドナウの流れ……………八一
 人になつかしむ雀……………八二
 同……………八三
 引越車……………八四
 バイデンの町……………八五

匈牙利

ブダペストの市街……………八六
 ハンガリーの娘……………八七
 ハンガリーの子供……………八八
 ドナウの水上飛行機……………八九
 ドナウの河蒸汽……………九〇

瑞 西

チューリッヒの市街 (一)……………九一
 同 (二)……………九二
 ルツェルンの盛り場にて……………九三
 風船賣……………九四
 メリーゴーラウンド(二)……………九五

英 國 (ロンドン)

ロンドンの子供……………九六
 母と子……………九七
 ロンドンの電車……………九八
 テームス河の消防演習……………九九
 ロンドンの花屋……………一〇〇
 七面鳥の市……………一〇一
 英國の番兵……………一〇一
 手廻し自轉車……………一〇三
 ロンドンの牛乳屋……………一〇四

埃 及

スエズ運河通航……………一〇五
 ポートセットの港……………一〇六
 埃及の女 (一)……………一〇七
 同 (二)……………一〇八
 トルコ帽型直し……………一〇九

シンカポール

シンガーポールの舟乞食……………一一〇

伯林のルナパーク

1

凡ゆる階級、凡ゆる職業を通じて日曜日には必ず休んで或は郊外に出て自然と親しみ、或は市内の遊び場を訪ふて此の一日を愉快に過す。さうした遊び場は市内のここかしこにある。巴里にも伯林にも東京に於ける淺草の如き、ルナパークといふのがあつて種々の見世物や遊戯場などがある。此寫眞は伯林の人達がシャルロッテンブルヒにあるルナパークへ顔も晴やかに繰込む或る日曜日の景である。

Lunapark, ein Vergnügungsort zu Scharlottenburg, Berlin.



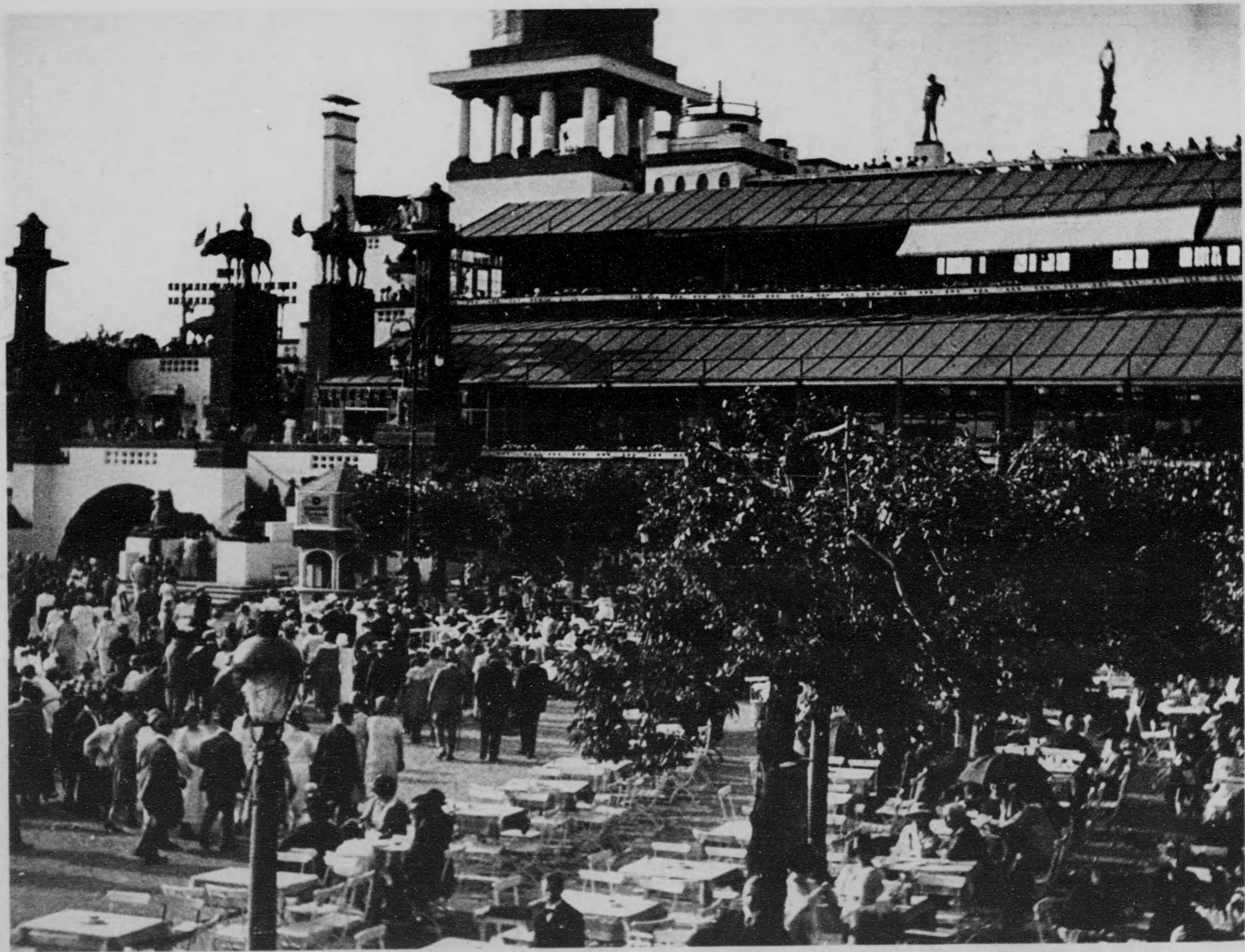
ルナパークの茶館

2

これは伯林のルナパークの茶館である。ごこの遊び場にもこの様な賑やかな茶館があつて、清楚な椅子やテーブルを並べた緑蔭には一杯のビール、一碗のコーヒーに疲れた足を休める男女の群を見る。正面の二階建は上も下も余す所なく椅子テーブルがおかれてあつて出盛りにはここも満員の盛況ある。

Das Café in dem Lunapark, Berlin.





伯林の食料品の市

3

寫眞は伯林のウキッテンベルガー・プラッツに開かれた食料品の市であつて、市内各所には此のやうな目的のために廣場がある。そこには毎週日をきめて市が開かれ、種々の食料品を直接生産者から需用者へ安價に販賣するやうな仕組になつてゐる。此の日は各家庭の主婦は寫眞に見るやうな籠や袋をさげて自ら買ひ出しに出かける。

Der Fleischladen des sogenannten Wochenmarkt und die Hausfrauen und Köchinnen, die auf diesem Markt Wirtschafts- und Küchenbedarf suchen.

Auf Wittenberger Platz, Berlin.





大きな女

4

此處は伯林のウキッテンベルグの廣場で、一週に二回食品の市がこのやうな小屋掛けで開かれる。頑丈な顔付きをした農婦が寫眞のやうな籠を背負つて野菜などを運んで來る。彼地の女は概して大きいがこのやうな大女は一寸珍しい。

Eine grosse Bäuerin, beim Wochen-Markt.

Sie trägt einen Korb voll Gemüse, Obst usw.



ベルリン郊外の電車停留場

5

伯林地下鐵道の西の終點チールプラットである、

Trielplatz, die westliche Endestation des Berliner Untergrund-
bahn.



伯林の乗合自動車

6

伯林市街を走つてゐる乗合自動車は此の寫眞の如く立派で頑丈で、歐洲各地のものと比較して一番上等であるやうに思ふ。只タイヤが空気入れでないことだけは缺點で、此自動車が通る時は流石に頑丈な伯林の建物も大部ひどい振動を感ずる。

Ein neues Kraftomnibus in Berlin.



夏の賣出し

7

七月も半ば頃になると北歐の都柏林にも流石に夏が来て道行く人々の着物も白くなり街路樹の緑も濃くなる。毎年その頃になると丁度日本の中元賣出しのやうに彼地でも夏期賣出しが行はれる。各商店には Saison Ausverkauf といふ文字を獨逸獨特の意匠に現はした看板が見られる。Wertheim, Ka De We, Hermann Tietz などの百貨店は仲々の繁昌で、日本のやうにやはり福引なごやつて景氣を呼んでゐる。

此寫眞は伯林のライプチヒ街にある百貨店ウエルトハイムの前で賣出しの賣物に群がる人々。

Die Käuferinnen beim Saison-Ausverkauf, vor dem Warenhaus
Wertheim in der Leipziger-strasse, Berlin.





伯林の花屋

8

此處は伯林のライプチーゲル街の百貨店ウエルトハイムの前裸になつた街路樹の梢をわたる風は身に浸み、雨さへ降る寒い冬の日、人々は暮の買物で忙はしい。

廣場に沿ふた街路には花屋が並んで居て、寫眞のやうな日に焼けた頑丈な農家の女が冬には珍らしい奇麗な草花を鬻いで居る。

此場所、此の女、そして連呼する *Zwanzig pennig* (一東二十ペンニヒ) の聲は伯林を訪れた者の忘れがたい思ひ出であらう。

Eine Blumenverkäuferin vor dem Warenhaus Wertheim in der Leipzigerstrasse, Berlin.



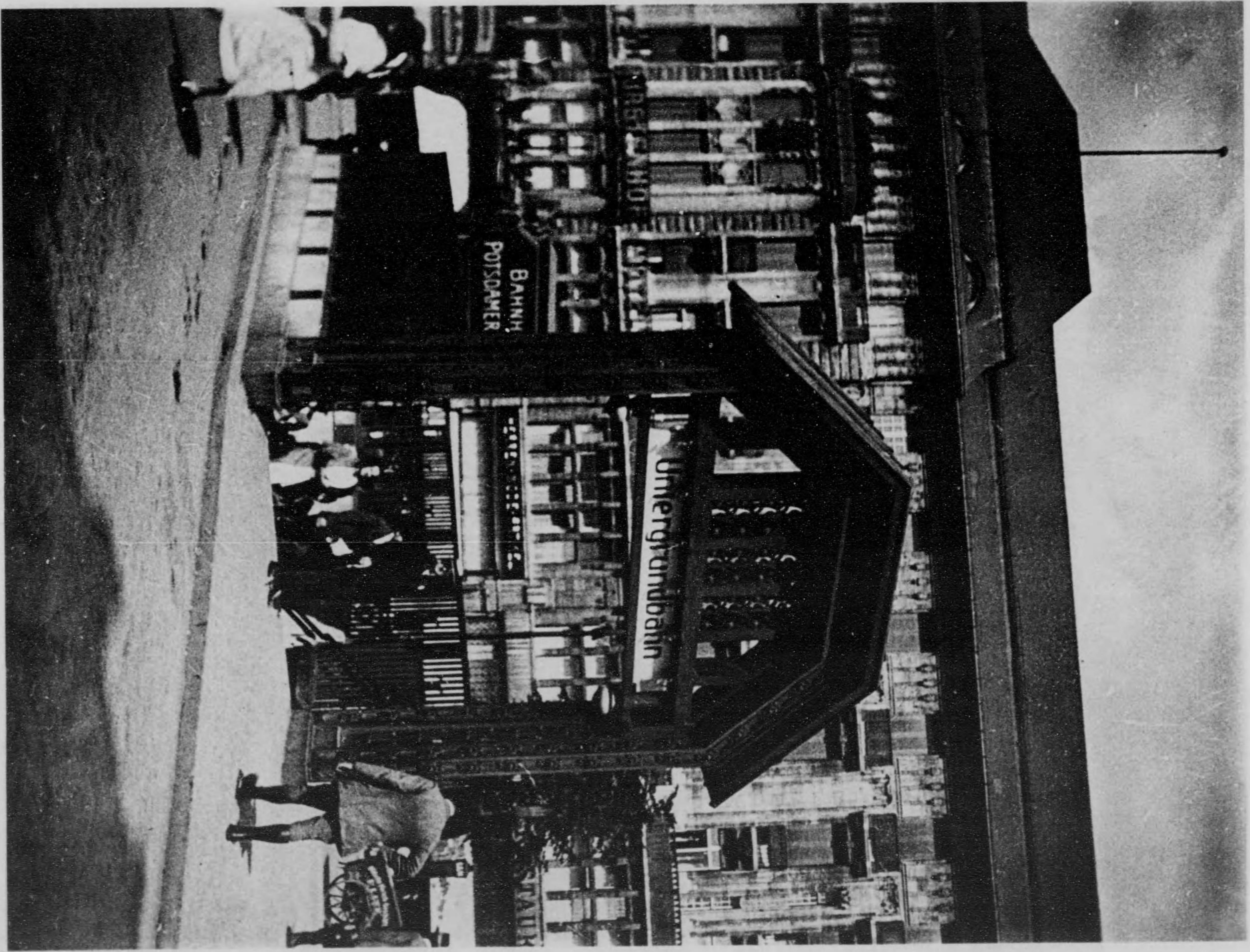


伯林地下電車入口

9

東京の須田町といひたいやうな伯林のポツツゲームの廣場は伯林に於ける交通の中心點で、各種の交通機關が輻湊するが、ここに建てられた交通整理の塔や巡察の力によつて規律正しく整理せられて居るので「親知らず」と云ふ様な別名はない。寫眞はポツツゲーム口停車場前に於ける地下電車の入口で正面は Fürstehof 云ふホテルである。

Die Eingang des Utergrundbahn vor Potsdamerbahnhof, Berlin.



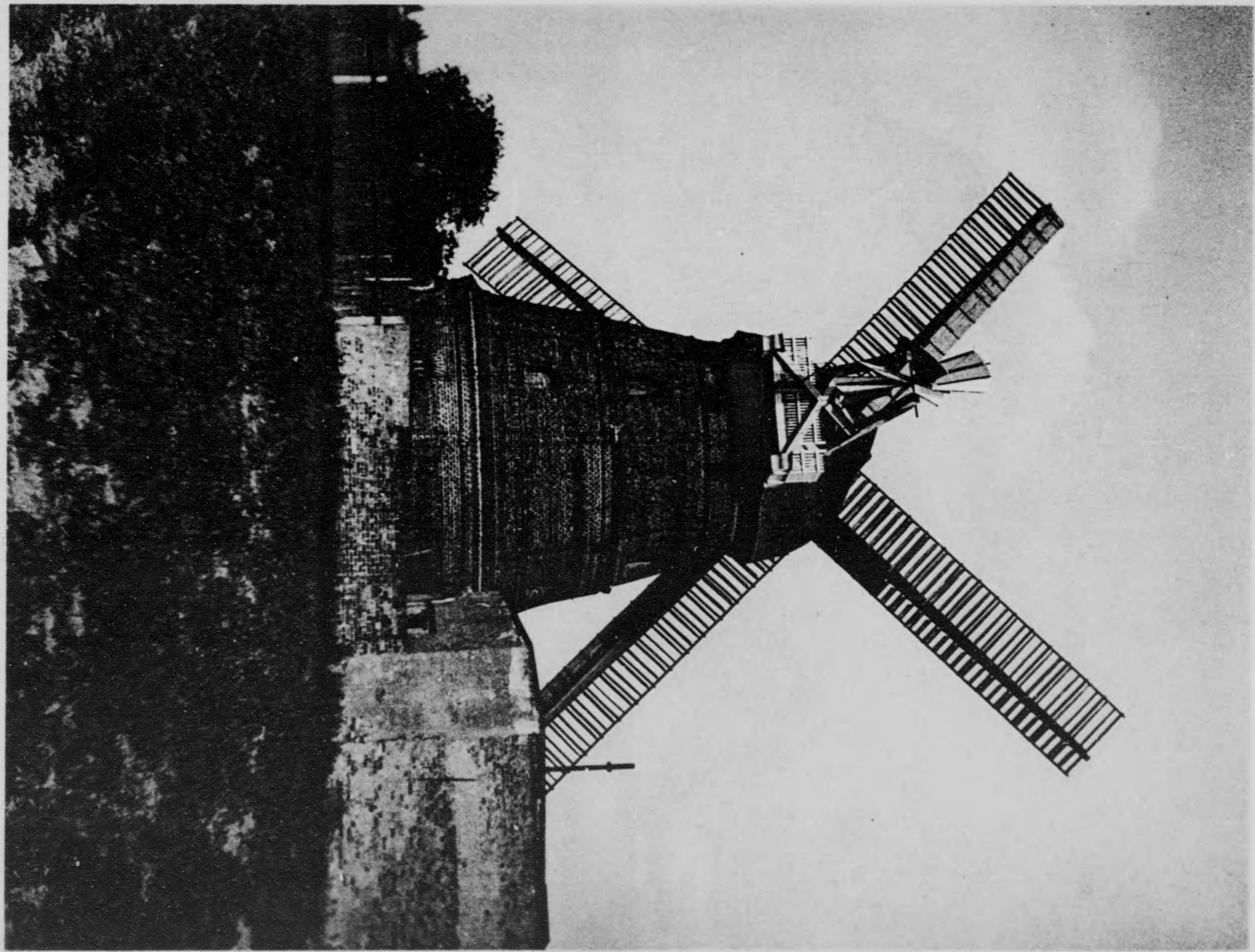
風 車

10

寫眞は伯林の西部ツェーレンドルフなる村にある風車で製粉に風車を利用して居る。此風車の持主はバンヤで、此所で挽いた粉で黒パンを焼いて市内に供給して居る。このやうな風車は和蘭が本場であるが獨逸特に北獨逸の農村には可成り數多く見受けられる。眼を遮るものもない大陸の平野に夕陽を浴びてゆるやかに廻はつて居る風景は確かに詩的である。

Die holländische Windmühle in Zehlendorf, westlich von Berlin.

Sie gehört einer Bäckerei.



ポツツダムの宮殿

11

伯林の近郊ポツツダムは獨逸舊帝室ホーヘンツォルレルン家發祥の地で、フリードリッヒ大王は此處を居城として居られた。此の宮殿は一七六三年より六九年にかけて大王の建設せるもので、代々の皇帝は夏の暑を避ける離宮として居た。

世界大戰の四年間を通じて幾度か御前會議が此宮殿で開かれた。カイザーの策戦が成つて若し此所で媾和會議が開かれてもしたならば世界は今日とは大部變つた大勢を現出してゐるであらう。君主を失つた宮殿には舊帝室の遺品などを陳列し一マルクの料金で一般の觀覽を許してゐる。壯麗並びなく、在りし日の榮華の程も偲ばれる。

向つて右に程近く、オランダ、ドールンの配所で寂しく逝いたアウグスト、ヴェクトリア皇后の塋域がある。フリードリッヒ大王の永への眠場であるガルニソン教會の尖塔から響いて來る鐘の音も過ぎし日の榮華を弔ふが如く、遊子の感慨そぞろ深いものがある。

Neue Palais in Potsdam, die von Friedrich d. Grossen erbaut wurde, in neuer Zeit viele Jahre hindurch war der Sommersitz des Kronprinzen Friedrich Wilhelm, der hier als Kaiser auch starb, und des früheren Kaiser Wilhelm II.



ポッツダムの清遊

12

前にはハーヴェルゼー、ハイリゲゼーなどの湖水を控へ、後ろには大森林の縁を負ふて居て、水と森に飾られたポッツダムは、舊離宮を中心とした林苑の美と相俟つて、獨逸に於ける風光明眉な場所の一ツである。日曜日のポッツダムは一日の清遊を試みんとする伯林市民で賑ふ。ステーション近くのガイゼル、ウキルヘルム橋の邊りからは、圖の様な汽船が出て、之等の湖を周遊し、或は遠くユングフェルンゼーを経て伯林に程近いワンゼーの湖水まで航行する。

夏の一日を清遊せんとする客を乗せて、森の影を映した水面を船は滑つて行く。

Ein kleines, schönes Dampfboot, das nur im Sommer von
Potsdam nach Wannsee fährt. Dieses Wasserfahrt hat ihren
besonderen Reiz.

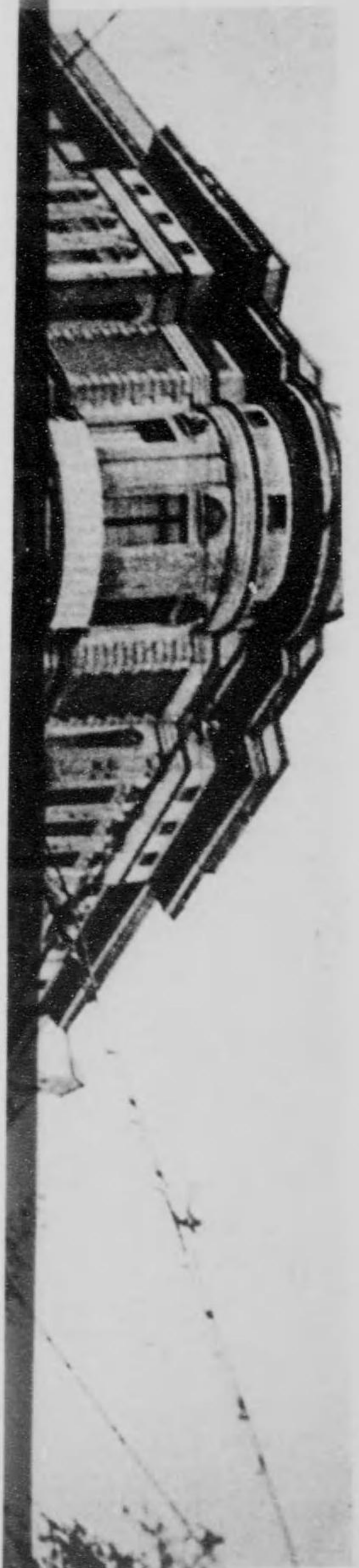


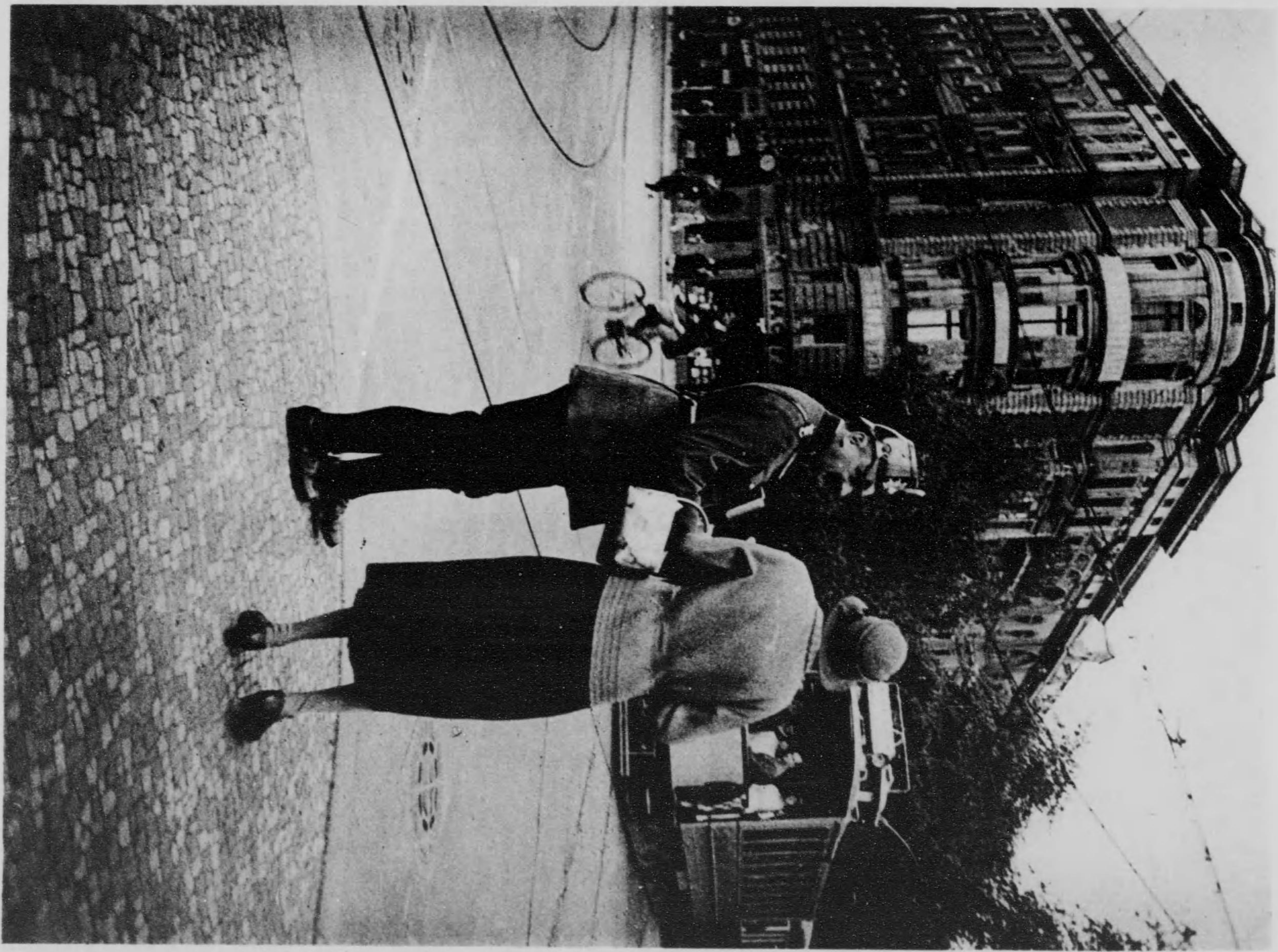
獨逸の巡査(一)

13

此所は伯林のシャルロッテンブルヒの Kurfürsten Damm 及 Joachimsthalerstraße との交叉點、交通巡査が道を教へてゐる。此の巡査の右の腰にはピストル、左の腰にはズツクの袋を下げてゐるが、その袋の中には町名番地の記載された本を入れるので、今、左手に持つてゐるのが夫れである。此巡査は何時も高級の鐵十字章を脇下に佩びてゐるところから察するに大戦の殊勳者であつたらしい。如何にも堂々たる風采ではないか。

Der Berliner Schützmann, der sich als ein Unteroffizier
verdienstvoll am Weltkrieg beteiligt hat.





獨乙の巡査(二)

14

これは伯林の或る盛り場を警戒して居る巡査の群である。大戦の結果軍備を極端に制限された獨乙は夫のスパイ會議で國防軍十萬の増員を要求したが拒絶されたので、其代償として巡査の大増員を行ひ現今では巡査と軍隊と合せて日本の常備軍も及ばない程の數に上つて居る。此等の巡査は兵營に起臥し、兵隊同様の訓練をなし、大尉中尉少尉などの稱呼をなし、服役年限其他全く軍隊組織になつて居る。此の巡査は聯合國殊にフランスの頭痛に病むところで屢々其減員や組織の改正を要求するが獨乙は言を左右にして仲々應じない。

若し戦争でもあつたなら、此等の巡査は忽ちにして兵士となり戦線に立つてあらうことは疑ひない。平和會議で表面上の陸軍そのものは十萬に削られ、てもこの立派な組織と威力とを示す變態陸軍を有する獨乙は依然として中欧の覇者と言つてい。

Berliner Schützleute.

Nach dem Weltkrieg wurde deutsches Heer verkleinert. Aber wegen seiner Lage ist Deutschland zum eigenen Schütze auf eine starke Landmacht angewiesen. Ist der Krieg erklärt, so werden diese Schützleute als Unteroffizier ins Feld ziehen.





ベルリンの嫁婦

15

曇つた夏の日の午後、伯林ルストガルテンで子供等を連れて遊ばせて居る嫁婦である。左方に見ゆる建物は、大戦前までカイゼルの宮殿であつたが今は博物館となつて居る。

欧州の嫁婦は各國ともこんな服装をして居る。嫁婦についての詳しい説明は、巴里の嫁婦の頁を参照せられたい。

*Zwei Berliner Kindern und ihre Pflegerin vor dem Altes
Museum am Lustgarten, Berlin.*



獨逸の子供(一)

16

七八月頃になると伯林にも流石に夏が来て學校なども暑中休暇となる。伯林の郊外のグリニウヰールドには數校で共同經營してゐる小學校の遊戯場があつて林間學校の如きものが開かれる。毎朝八時頃になると私の宿の前を寫真に見るやうな兒童の團隊がリュックサックを背負ふて唱歌を歌ひながらその遊戯場へ向ふので、朝寢の私は何時も此の歌で夢を破られるのであつた。兒童の遊戯としては日本の鬼ごことや手鞠つきに似たものもある。そして鞠をつく時に童謡を歌うのは彼地の子供も同じである。此の林間學校で毎日同じやうな遊びを繰返しては夕刻に先生に連れられて思ひ思ひに草花などを手にして歸るのである。時には、この國の子供も好んでするやうにばつたや蛙の子などを土産にする子供もあつた。

Die Berliner Kindern, die im Sommer auf dem Spielplatz
in Grinewald spielen.



獨乙の子供(二)

17

獨乙では伯林のやうな都會でも彼地獨特な剛健質實な氣風が窺はれる。之は伯林の或る公園に遊びたわむれてゐる小學校の生徒を集めて寫したもので我東京の子供などには到底望まれない蠻的な點がある。あちらでは別に跣足を禁じてないので夏の伯林ではフリードリヒ街のやうな繁華な街路にも素足の子供を見かける。獨乙の強い原因は此寫真でよく説明せられるであらう。

Deutsche Knaben und Mädchen in einem Park von Berlin.



獨逸の子供(三)

18

此所は伯林のツォー・ステーションの前保護者に連れられた子供等の一隊が
郊外に一日を遊び暮し汽車から下りて家に帰りつゝある。

右側は Wilhelms Hallen を言ふカフェーで Café und Diele 5 Uhr Tee, Konzert を言
ふやうな文句はよくあちらのカフェーの店先に書き出されて居る字である。

Berliner Kindern vor dem Bahnhof Zoo.



曲馬團の廣告

19

獨乙ミュシヘンに根據を構へて歐洲各國の大都市を巡つて居るクローネと云ふ大きな曲馬團がある。流石は本場のサーカスだけあつて、其組織や道具立てが仲々大仕掛けである。有ゆる種類の猛獸を手馴らして連れて居るのみならず。幾つかの飛行機まで携へて居る。猛獸相手の危険な藝當なども仲々鮮かである。座主のクローネが伯林市内を豹を連れて散歩する事なども奇抜な廣告法であつた。

寫真はその曲馬團が伯林へかかつた時市内の空地の板塀などへ貼り出した大きな廣告である。

Eine grossartige Reklame deutsches Zirkus "Krone."



伯林の富籤屋

20

獨逸では富籤が仲々盛んで、プロイセン、ザクセン、バイエルンなどの各州で州監督の下に發行してゐる。丁度先年關東州で發行した彩票の如き仕組みのものである。

各市には富籤専門の店があつて上手な廣告で世人の射倖心をそゝつてゐる。ライプチヒではザクセン州の富籤宣傳隊と稱する大げさなオーケストラの行列を見受けた。電車の中などにも別荘を得んとせば富籤を買へとか働いて儲けるよりは富籤で儲けよといったやうな露骨な廣告を見受けるのも、あの物堅い獨逸としては異様に感じられる。

寫眞は伯林フリードリヒ街の富籤やの前で慾張り屋が廣告を眺めて居るところである。「プロイセン州富籤最高當選二百萬マルク、最終抽籤八月十一日より三十一日迄」か「福運富籤一枚三マルク、一等六萬マルク」などと廣告してある。

Eine Lotterie-kollekte, in der Friedrichstrasse, Berlin.



辻馬車の中で賭博

21

伯林の真ん中がかうした光景が見られる……伯林のツォー・ステーション
Bahnhof Zooの前で、客を待つてゐる辻馬車の馭者達が集り賭博に夢中になつ
てゐる所で、此の寫眞は著者が徐行の馬車の上から秘密寫眞機で撮影したの
であるが、前方に立つてゐる二人の見張役も流石に氣付いてゐない。寫眞の
向つて右方に見えてゐる Friseur と言ふ文字はフランス語から來た床屋とい
ふ意味で、彼地のステーションには大抵は附屬の床屋がある。左上方の圓形
の看板は皿を象つた眞鍮製のもので、獨逸で床屋の看板にしてゐる。

Die auf der Droschke spielende Kutscher, zwei von ihnen
halten Wache.

Vor dem Bahnhof Zoo, Berlin.





獨逸の青年隊員

22

戦後の獨逸には祖國復興を目的とした各種の愛國的團體が出来て其の青年隊員は平素全ゆる訓練を怠らない。事ある毎に寫眞の如き服裝をして示威運動を行ふを見る。鼓樂隊を先頭にしてピッコロの音勇ましく行進するのが常であるが、時には國粹歌とも云ふべきブロシヤンマーチを歌ふて街を行進する事もある。何れも規律あり訓練された軍隊の様で獨逸の復興は此種の青年等によつて遠からず達せられるに違ひない。

此所に見る二青年は或る日ルストガルテンの舊宮殿前で行はれた愛國運動に参加する隊員で、向つて左の青年の肩章は樂手の印である。

ウエルサイエ條約で聯合國は獨逸の軍備に對しては苛酷なる制限をなした。此種の青年隊も彼等の頭痛の種で、屢々獨逸に對して其の解散を要求したが、獨逸政府は『現在獨逸國內に幾多青年團體の存在は決して否認しないが然し此等の團體は一に體育を奨励し規律の觀念を養ふを目的として居る』と體よくはねつけて居る。

Zwei deutsche Jünglinge, Mitglieder einer patriotischen Partei.





獨逸の反猶太人黨

23

獨逸に於ける猶太人はその數に於て必ずしも多くはないが經濟界、言論界、學界等、社會の全ゆる階級に蟠居して獨逸文明の一大有力なる支柱となつて居る。然し獨逸國民は愛國心のない猶太人を極端に嫌惡して獨逸より彼等を驅逐するにあらざれば獨逸は遂に獨逸たるの所以を失ふであらうと、その排斥を叫んで居る。然し彼等の勢力を驅逐するときは獨逸は存立を危くするので如何ともし難い状態である。

國家的觀念を有しない彼等は戰爭を利用して暴利を貪り遂に革命を起すに至つた事は周知の事である。その爲獨逸には反猶太人黨が出来て盛に排斥運動を起して居る。此黨の旗印は十字鎌 *Hakenkreuz* で鎌を十字に組合はせて、丁度卍の形をなしたものである。各種の機關紙を發行し寫真に見るやうな恰好をした其隊員が市内の繁華な場所でそれを賣つて居る。寫真は伯林のフリードリヒ街に於ける其隊員の一人で、道行く人々が之を眺めて居るところ、右方は道路掃除人。

Ein Mitglied einer antijüdischen Partei,

Er verkauft die von der Partei ausgegebenen Zeitungen auf
der Friedlichstrasse, Berlin.



盲目の物賣り

24

こゝは伯林の西の方、郊外に近い街で、著者の住んで居た街路である。此近所には毎週日をきめて食物や日用品の市が立つ。其日には寫真に見る様に街の角の廣告塔の所に癡兵かと思はるゝ盲目の軍服姿の物賣りが現はれるのであつた。僅かばかりのブラシヤ毛のはたきを持つて立つて居るが、一向に賣れる様子もない。道行く人々は彼に五錢、十錢と僅かの錢を恵んでやる。右の方に立てる乃木將軍式の老人はマツチ賣りで、少しばかりのマツチを手にして居るがマツチの賣り上げよりは矢張り貰ふ方が多いらしい。中央の豹模様の女は丁度今此癡兵に幾何かを與へて過ぎ去るところである。彼地にはこのやうな物賣り兼物乞ひが少なくないが人々はよく此等をいたわつて居る。

或時は電車を下りた此盲人が通りがかりの小供に手をひかれて此廣告塔の下へ來るのを見かける事もある。電車の車掌や客が此盲人を親切に介抱する様も見て誠に氣持がいい。こうした弱者をよくいたわらなければならぬと云ふ考へは彼地の人々の凡てによく徹底して居るやうに思はれる。こんな麗はしい世間の同情によつてこそ此等の癡人は其日々の生活もさして不快でなく送ることが出来るであらう。

Ein blinder Invalide der Bürsten verkauft und ein alter
Streichholzverkäufer auf einer Strasse der Vorstadt von Berlin.





獨乙スツツトガルトの市街

25

スツツトガルト市の目貫きの通りケーニヒ街 König Strasse であつて、又正面の突當りはステーションである。中央の建札の如きものは此の場所を通過する電車の番號と終點地名とを書いたもので乗客は電車の番號を此建札に照し合せて其電車の行く先きを知る様になつて居る。歐洲各地の電車は皆此様に地名の代はりに番號を附してあるが、それは彼地では字綴りの關係上、日本の電車の様に簡單に二三語で其方向を表し難いためであらう。此の點に於ては漢字の方が便利である。

Der Strassenbahn in der Königstrasse, Stuttgart.





ナウンブルヒの町外れ

26

獨逸ザクセン州ナウンブルヒの町外れで、いたづら好きの子供等が石を投げて街路樹たるカスターニーの實を落してゐる所である。

Viele unartigen Knaben auf einer Strasse der Vorstadt von
Naunburg, Sachsen, Deutschland.





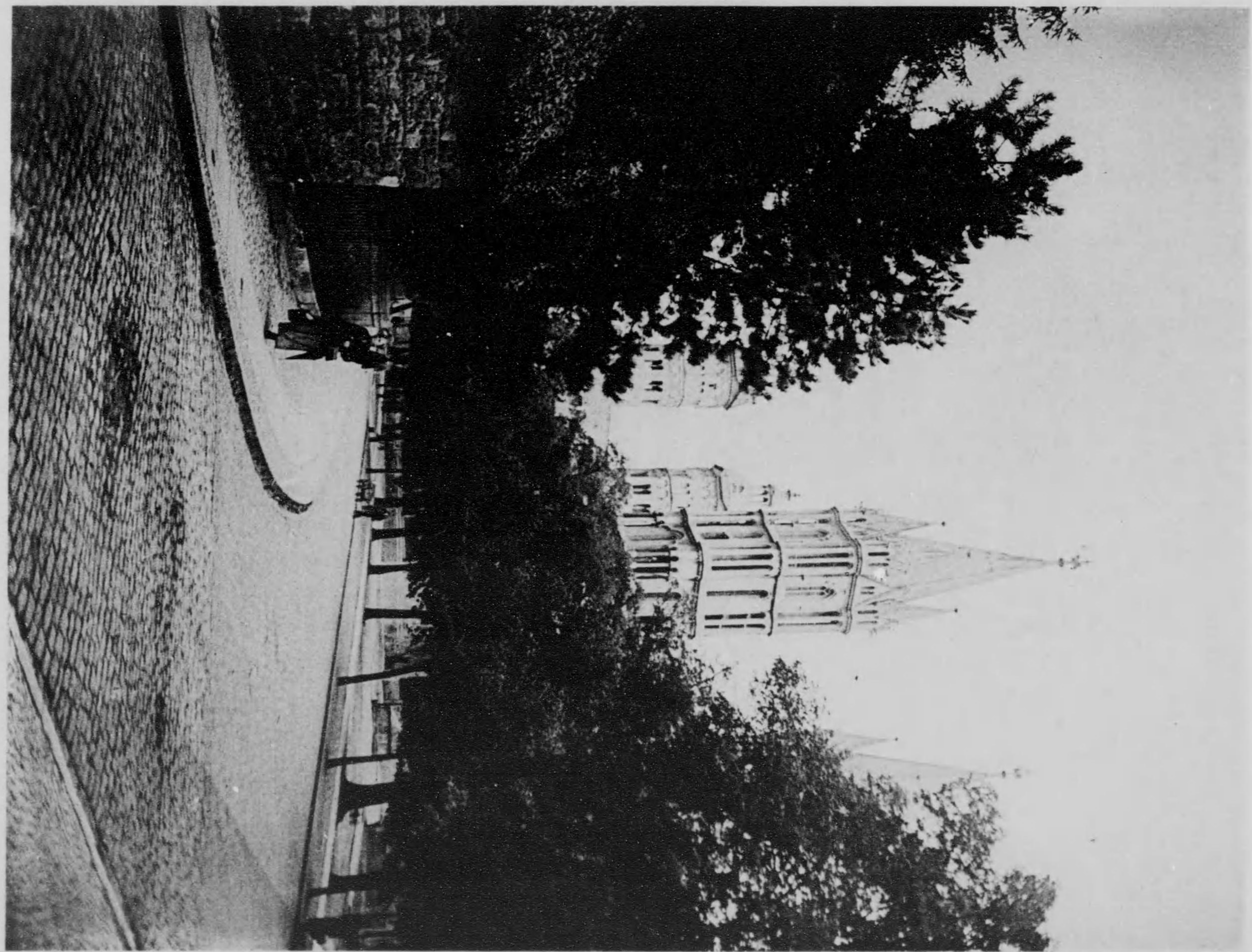
ナウンブルヒの寺院

27

獨逸ナウンブルヒ Naumburg 市の寺院 Dom St. Peter und Paul であつて十三世紀頃に建てられ、チウリンドン地方に於ける中世紀建築の粹であつたそうである。

Dom St. Peter und Paul.

Eines der Hauptwerke der mittelalterlichen Baukunst in Thüringen. Naumburg, Deutschland.



ライプチヒの乗合自動車

28

獨逸ライプチヒ市のステーション前に於ける乗合自動車である。立派で頑丈で乗り心地のいいことは我が東京の圓太郎などはとても比べ物にならない。右側の數人はその車掌や運轉手である。

Das Kraftomnibus und die Schaffner vor dem Hauptbahnhof
Leipzig, Deutschland.



獨立ライプチヒの露店

29

此れは獨逸ライプチヒ市のアウグスツスプラッツに於ける露店であるが、かうした光景は彼地の盛り場に見られる。

大きな洋傘をたてた露店には様々な品物を並べて辯舌さわやかにしやべりたてて居るのは我が國の縁日などで見るのと少しも變らない。賣つて居る品物なども野菜の皮剥き、輕便砥石、怪しげな染粉等であつて、品物まで日本の夜店のものと同じである。磨粉と水銀との混合にアルゲンチンと云ふ様な名をつけて銅や真鍮の道具を銀色に光からせる怪しげな磨粉なども賣られて居たが人智の進んだ獨逸にも斯様な幼稚なものも賣れるかと思はれた。

Stände der Krämer vor dem "Neues Theater" am Augustus
Platz, Leipzig.





小さな汽車

30

獨逸ミュンヘン市に開催せられし交通博覽會に出品せられた小さな汽車であつて、一尺幅の軌道の上を約三十人ばかりを乗せて心地よく走つて居た。

Der kleine Zug der bei der Münchner Verkehrsausstellung zur Schau ausgestellt wurde.



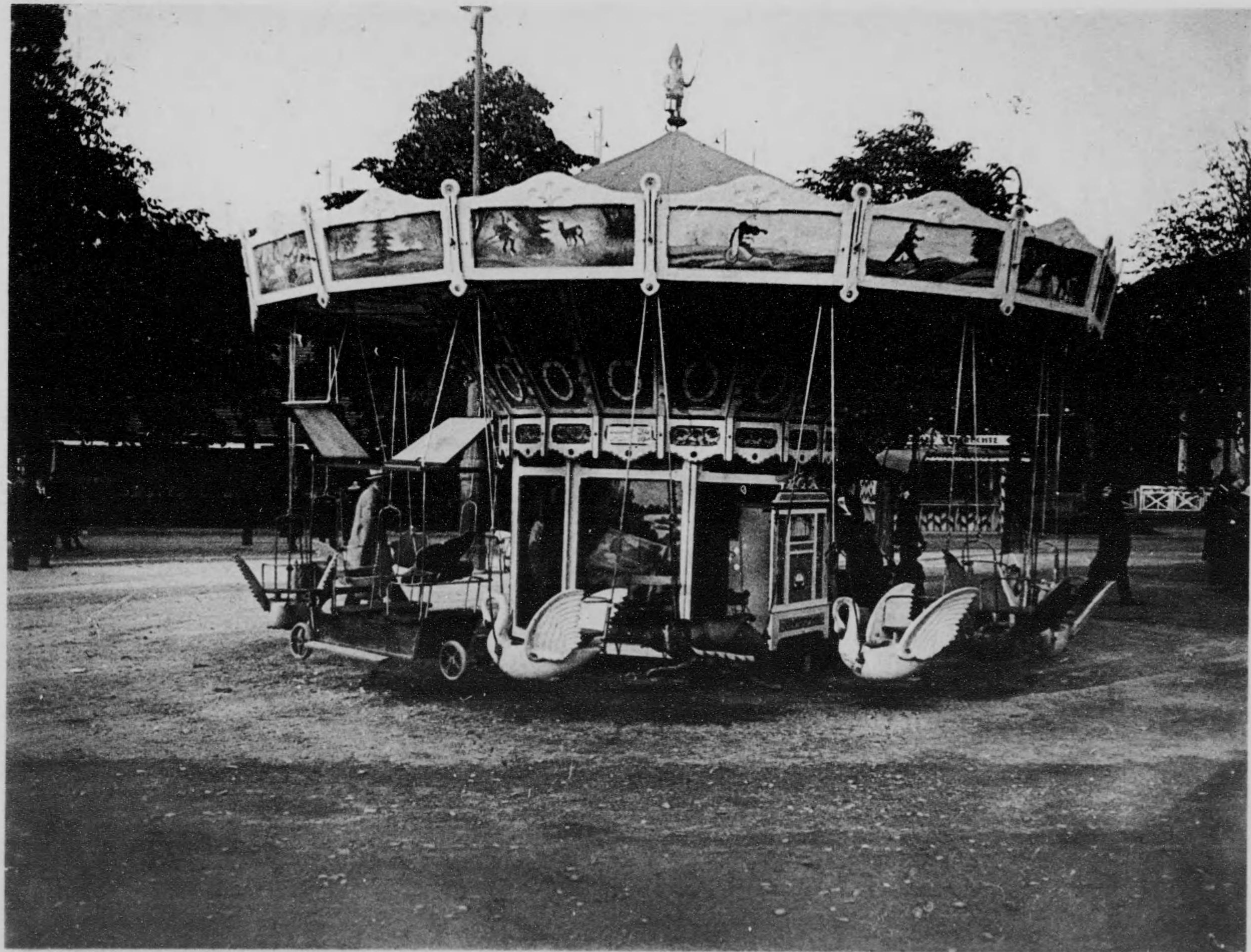


御祭や縁日などの盛り場には各種の見世物が出るのは洋の東西を問はず何所でも同じであるが、わけて、淺草の花屋敷にあるやうなメリーゴーラウンドは至る所の盛り場には必ず見受けられる。

寫眞は獨逸ミュンヘン市に於ける御祭の際に見たもので、蝶、鷺鳥、甲虫などを象つた至つて不格好な乗り物が自働オーケストラのカルメンの曲などにつれて廻轉する。そして子供等が之に乗つて嬉々として遊ぶのである。之等の見世物はみな組立式になつてゐて、疊んで一纏めにすれば鐵道の貨車式の車に入つてしまふ。そしてステーションまで馬に引かせ、そこから先は其のまゝ貨車にしてしまつて鐵道運搬をするやうに出來てゐる。

興行者は此の車の中に寢泊りして今日は東、明日は西へと流浪する所からヂブシーとも呼ばれて居る。

Die Karusselle (Merry-go-round) findet man auf den Vergnügungsorten überall in Europa. Sie drehen sich begleitet auf dem automatische Orchester. Diese Anführer heißen auch "Gypsy," weil sie von einem Lande nach andern herumwandern.



フランクフルトの舊市廳

32

フランクフルトは昔 Franconofurd 又は Frankfurt と稱せられ、東フランス帝の首都であつた。十二乃至十四世紀の頃は中歐に覇を唱へ、商業都市として殷盛を極めてゐた。其後幾多の變遷を経て十九世紀には獨逸聯邦の自由市となり、現在はプロイセン州に屬し獨逸有數の商工中心地となつてゐる。舊市街とも云ふべき所には現代と遠く距つた時代の建築物が珍奇な姿を並べてゐる。火事も地震も滅多にない此地方では數百年後の今日でも昔のまゝに残り且つ乾燥した大陸の空氣は之等の建物に苔一つ見せない。寫眞の全景は中世紀の建築で舊市廳である。ローマー Römer と呼ばれ十二の異つた建物より成つてゐるが、現在は當市の歴史を物語る博物館となつてゐる。

詩人ゲーテは此市で生れた。今でも此の廣場の近くの Grossen Hirschgraben と云ふ通りの廿三番地には彼が呱呱の聲をあげた家が保存せられ、彼の幼年時代の遺物などを陳列して一般の觀覽に供してゐる。一七四九年——六五年までの腕白時代を此地で過した彼に取つては此の廣場はよい遊び場であつたであらう。犬を連れた婦人の向ふの一隊は修學旅行の生徒で、先生から此建物の由來をきいてゐる。

Der Römer, das alte Rathaus der Stadt umfasst zwölf ursprünglich
verschiedene alte Häuser, die heute als Museum besucht werden.
Frankfurt a/M, Deutschland.



フランクフルトの野菜市

33

これは獨逸、フランクフルトの舊市街のドーム・プラッツに開かれた野菜物の市である。正面の建物は中世紀の建築物であつて、フランクフルトのやうな中歐の古い都市で屢々見られるものである。廿世紀の今日では此様式は珍しい。

Die Gemüse-Markt auf Domplatz in Frankfurt a/M,
Deutschland.



ボエーリンガー製薬工場

34

獨逸マンハイム市にあるボエーリンガー製薬工場の寫真である。日本で昔から用ゐられてゐたフェラトローゼなる強壯劑は此工場で製造され東京の三共株式會社が輸入して發賣してゐる。

Die chemische Fabrik G. F. Boehringer & Soehne G. m. b.
H. Mannheim-Waldhof.



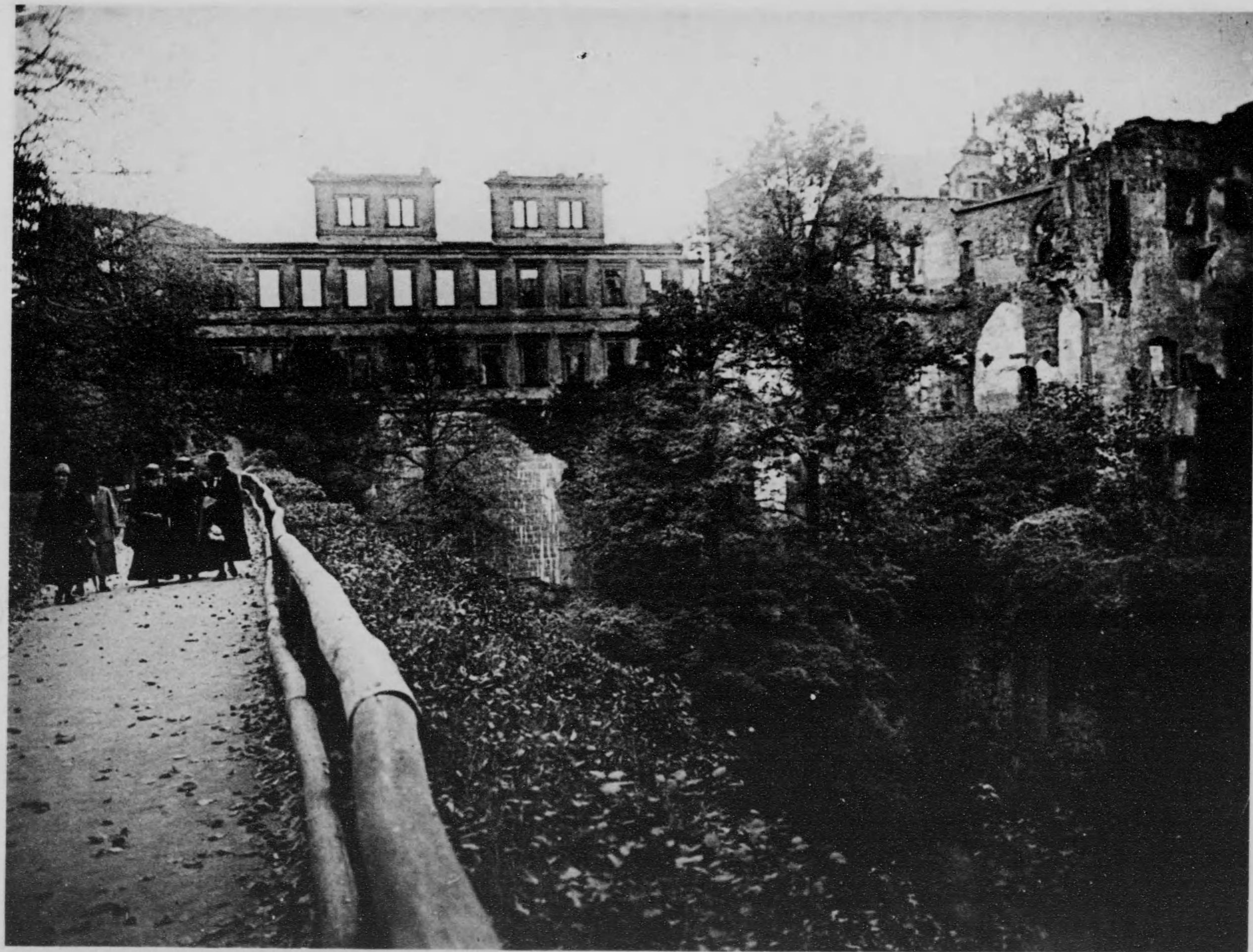


ハイデルベルヒの古城

35

ハイデルベルヒは大學を以て有名であるが、昔から王侯の居城のあつた所で、廢墟となつた古城の姿を今もなほ此の町の一角に見ることが出来る。此の城の地下室にはフランス軍のために爆破せられた時焼け残つた巨大な酒樽が残つてゐる。二十一萬リートル(約一千石)を一呑みに容れるといふ程の大ききで昔城の將士が嗜んだ酒を容れたもので、そのやうな樽が昔は數個あつたとのことである。彼等のする何事も我々に比べては一廻り大きいのは昔も今もさうだと感ずる。城の一角の堡壘は十七世紀の末葉(一六八九年)フランス軍のために爆破せられて柘榴の如く破壊されたそのまゝの姿が今も残つてゐる。そして此の光景を見るものはそこにも獨佛唯合ひの歴史を讀むことが出来るのである。

Das alte Schloss von Heiderberg das im Jahre 1689 von
Französischen Truppen zerstört wurde.



ヴェニス

36

水の都、ゴンドラの都、ヴェニスは斯く呼ばれる。大古數多の河流によつてアルプスの連山から運ばれた土砂が形成したとか云ふ三角洲上に建設された都である。大小百十八の島から成り、之を連絡するために約四百五十の橋が有つて海の中に浮いたやうな都である。道路はあつてもうねりうねつて而かも道幅は何れも五六尺、更に橋が寫眞のやうにみな太鼓形であるから此所では車は役立たない。大小のカナールに浮ぶゴンドラが唯一の交通機關である。

そのヴェニスのカナール、如何にも美しさうだが實は汚物流し放題の泥溝で、鼻をつまゝねば通れぬ場所さへある。月下に眠るヴェニス、燈火に彩られたヴェニス、夕陽に映ゆるヴェニスだけを見て眞晝間のヴェニスは見ぬがよい。

Le canal de Venise.

*Le canal de Venise est la principale voie de communication
de cette ville d'eau.*



ヴェニスサンマルコの廣場 (一)

37

此寫眞はヴェニスのサンマルコの廣場 Piazza San Marco であつて、彼地では單に *la Piza* と呼んでゐる。此の廣場はヴェニス生活の凡ての中心で、正面の大伽藍は有名なサンマルコの寺院である。七世紀頃に建てられたビザンチン式で、前方の三本の柱は杉の木の旗桿であつて昔はヴェニス共和國の國旗を立てたさうであるが、今は日曜祭日に伊太利の國旗を立てる事になつてゐる。廣場の西北側(圖の左端)には巨大な古式の時計臺 *Torre dell' Orologio* があつて時間になると屋上で二人の人形が時を打つやうな仕掛になつてゐる。廣場の周圍には繪はがき、硝子裝飾品、貝細工などの御土産物の店が軒を並べてゐる。又數多くのカフェーではコンツェルトの時間など非常な人出である。此の地は歐洲各地からの見物客で斷へず混雜してゐる。此の様な盛り場には無數の鳩が群がつて居て餌を賣る老婆や老爺が見出されるのは何處の國も同じである。トウモロコシの實を買つて與へると馴れた鳩は手の上や肩の上などに飛んで來る。

Place de San Marco de Venise.

Piazza San Marco de Venise. Le grand bâtiment byzantin en face est le cathédral de San Marco.





ヴェニス、サンマルコの廣場(二)

38

ヴェニスのサンマルコ廣場に於ける著者で、微笑を浮べて伊太利美人ものぞいてゐる。

Place de San Marco de Venise.



ヴェニス の ゴンドラ

39

寫眞はヴェニスのゴンドラである。黒光りする小舟で、船は鋭く尖がり、船は鋳と鋸を組み合せたやうな物凄い飾りを付けてある。その鋸の齒の數は船頭の住む各區によつて異つてゐるさうである。兩側の舷は龍のおとしごの様な格好をした眞鑄製の飾りものがしてある。そして異様な服装の船頭に漕がれて鋸鋳を銀色に輝かせながら此の異様な小舟が水を切つて行く有様は確かに世界の珍である。

La gondole de Venise.

*Les célèbres gondoles de Venise sont les principaux moyens
de communication de cette ville.*



ヴェニスの大運河

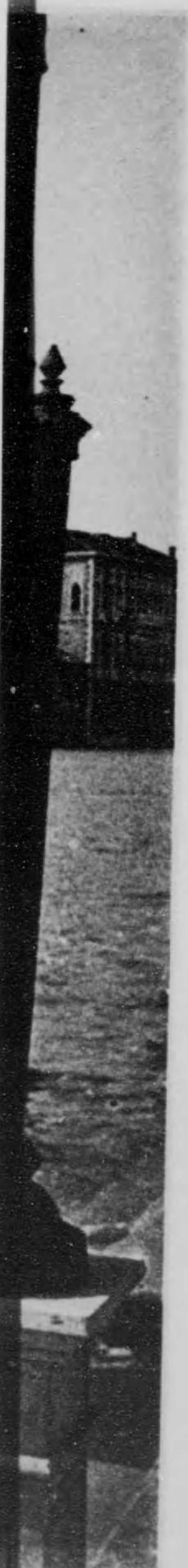
40

ヴェニスの市街を兩断するグランドカナルと對岸に屹立する Santa Maria della Salute の寺院である。夕陽に照らされて金銀に煌く漣の上を船の音もゆるやかにゴンドラがすすべる。舟上に相擁して若い男女がマンドリンの音に伴れて歌ふ情歌が静かに岸に響いて来る……それは南歐の情緒であり、ヴェニスのみが誇りうる畫である。

歐洲大戦には伊軍が二年有餘の間死力を盡して固守した彼のイソント川の戦線も獨逸大軍の壓迫に耐へ兼ねてヴェニス市に近いピアヴェ河畔まで退かねばならなかつた。それがため百餘億の軍費は煙になり、全軍六十師團中約半數は支離滅裂となつた。此決戦的大打撃は伊國の上下を震撼せしめた。その時に當つて敵の最先方は已にヴェニス市水上の此處彼處に現はれ徴發せるゴンドラには機關銃を据えつけ此の附近まで進撃し、可惜世界の名所も無慘の戦禍を蒙る危機一髪の所であつたが辛くも防ぎ止め得たのは幸ひであつた。

Le Grand canal de Venise.

Le Grand Canal et le cathédral de Santa Maria della Salute
de Venise.





フューメの港 (一)

41

フューメ港はもと奥國の領地であつてアドリアチック海唯一の要港であつた。世界大戦の第三年目に伊太利が漸く洞ヶ峠を下る時の條件はアドリアチックの制海權や、ダルマチア沿岸の領有等であつた。然しヴェルサイユ會議に於てウキルソンはその條件を認めなかつた。悲憤やる方なく一九一九年の秋、熱血詩人ダヌンチオの率ゐた義勇軍はフューメ港を占領して隣國ユーゴスラヴキアと事漸く重大ならむとしたが翌一九二〇年には伊、ユ兩國數次交渉の結果、自由市とした。然し尙不滿であつた伊太利では國粹黨のムツソリニが首相となるや彼は、ユ國に難題を吹きかけ、ユ國また屈せず、爲めに、國交再び危急に類したが協定の結果、伊太利支配下に歸した。兩國の境界線は市内を横切つて居る。寫真に見る溝渠がそれであつて、正面の建物の左端、街路樹の盡くる所が當時の激戦地である。現今その附近に架せられてある假橋が兩國の交通路で、兩々國旗を立て着劍の兵士が睨みあつて立つてゐる。役人は忙しさに片つ端から通行人の懷中物や旅券を検査してゐる。歐洲に旅行して初めて國境の面倒さを知つたが、此の伊、ユ兩國の境界に於て特に物々しさを感じた。

La frontière de Fiumé d'Italie.

Le canal qui traverse la ville de Fiumé forme la frontière
entre l'Italie et la Yougoslavie.



フューメの港 (二)

42

これはフューメ海岸通りであつて、正門の大きな建物は Grand Hotel Europe と云ふ旅館である。

La quai de la ville de Fiumé.





フューメの港(三)

43

此の寫眞はフューメの海岸通りで、正面の建物はグラントホテル、ユウローバといふ旅館である。

Le quai de la ville de Fiumé,



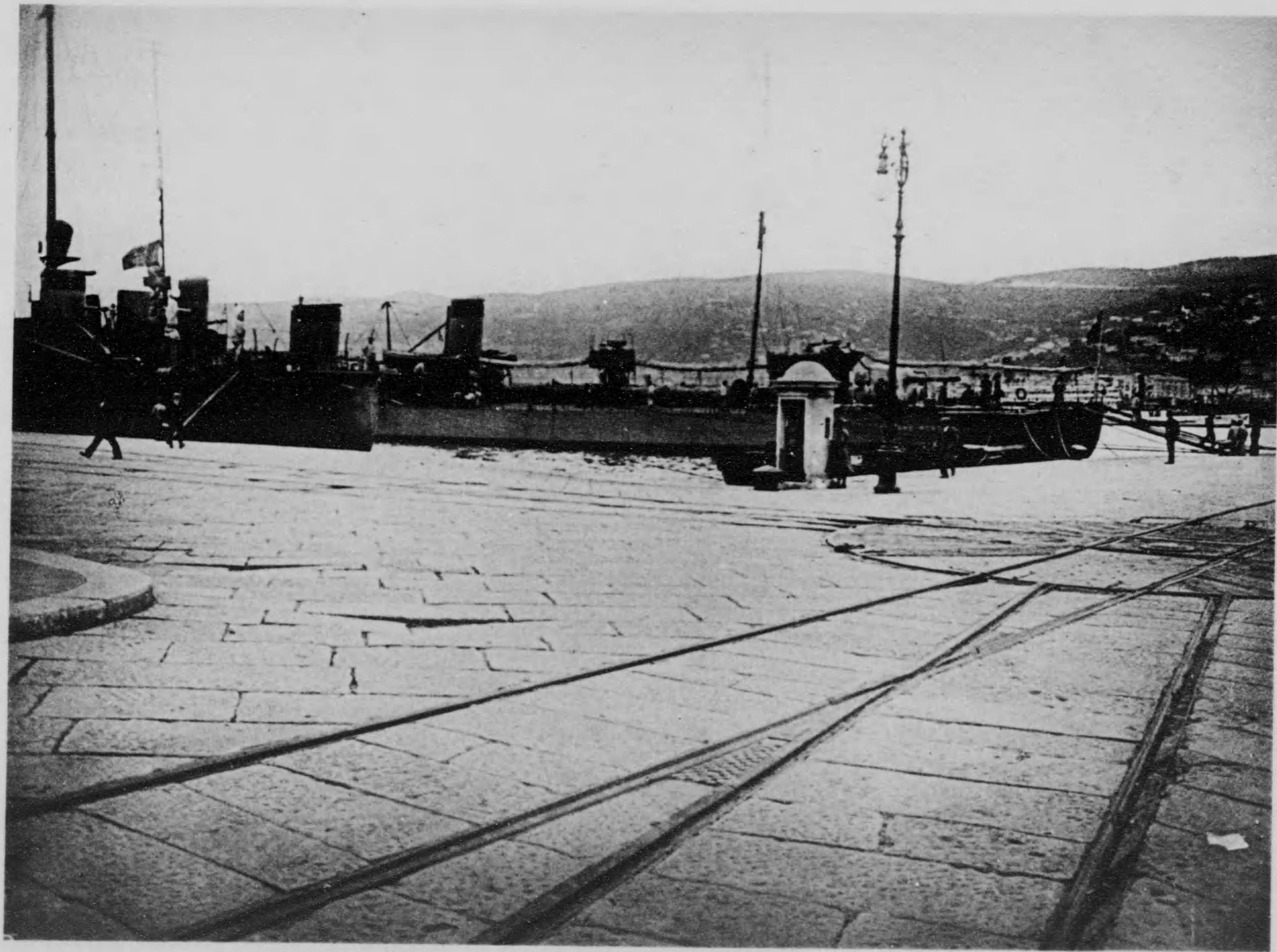


伊太利トリエスト港

44

トリエスト港はアドリヤチック海の要港であつて、曾ては奥匈帝國の領有であつた。歐洲大戦中は地中海を荒した獨逸潜航艇の根據地であつたが戦敗の結果遂に伊太利に割讓する事となつた。寫眞は港内に碇泊せる伊太利驅逐艦である。

La vue du port de Trieste d'Italie.



トリエスタの海岸(二)

45

此の寫眞はトリエスタの海岸通りであつて、正面の建物はホテル・サポイといふ宿屋である。

Le quai du port de Trieste.



トリエストの廣場

46

寫眞はトリエスト市の廣場である。西洋の都市には何所でも此のやうな廣場があつて、そこには必ず銅像や石像の立派な彫刻が見られる。我が日本のやうに讀みにくい篆書や隸書で石の面に彫り刻んで事蹟を後世に傳へやうとする東洋風な石碑の代りに、彼の地では彫刻によつて字のよめない者にもその意味を直ぐ悟らせやうとするのである。

Une place de la ville de Trieste.





トリエストの野菜市

47

トリエストの廣場に開かれた野菜の市であつて、正面の老婦は此の近郊の農家のものであらう。顔の色、眼の色、そして服装などまで些さか西洋ばなれがしてゐる。ローマ時代そのまゝと言ひ度いやうな古風な大形の釣り下げ秤でキャベツや茄子や馬鈴薯などを量つて賣つてゐる。

Le marché des légumes de la ville de Trieste.

